

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和元(2019)年5月1日 水曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台



新時代に決意をこめて

九州西教区(嘉瀬慶文宗務所長)では、4月22日に太宰府宝満山にて「六所宝塔」(如法経塔)の建立十周年記念法要を厳修した。六所宝塔は平成21年11月に伝教大師の遺徳を偲び大師顕彰の意味を込めて建立されたものである。また太宰府は新元号「令和」ゆかりの地でもあり、参加者は新しい時代を迎えるにあたり、あらためて伝教大師が祈念された国家安泰、仏法興隆、国民安楽のご精神を護持してゆく決意を新たにしました。

令和ゆかりの太宰府で

九州西教区 六所宝塔建立 10周年記念法要

法要は嘉瀬所長を導師に法華三昧で約1時間行われた。来賓には甘井亮淳天台宗財務部長、藤光俊宗議会議員、角本尚雄西教区顧問らが出席。また宝塔と建立地を護持している森妙香妙香庵住職とその篤信者らが参加した。

「宝塔」の基となったのは、伝教大師が国家安泰、仏法興隆、国民安楽を祈念する拠点として日本各所に建立を企画した「六所宝塔」である。六所宝塔は歴史の中で焼失したが平成21年11月に開宗千二百年慶讃大法会記念事業として、太宰府の安西筑前宝塔跡に再建された。同時期に九州東教区によって宇佐神宮にも宝塔が建立された。

嘉瀬導師は「宝塔と宝満山の地を守ってこられた森住職と篤信者の皆様に敬意を表す。次の10年にむかって天台宗、九州西教区としてしっかりと御護りしてゆくと決意を新たにするものである」と挨拶した。

伝教大師は遣唐使として渡海する前年の延暦22年に龍門山寺に籠もって薬師如来四体を刻んで法華経を講じ、宇佐八幡大神を拜して渡海の無事を祈った。

日本に帰国した大師は、弘仁五年に宇佐神宮を巡拝し、神恩感謝のために宇佐神宮(当時は弥勒寺)に六所宝塔のひとつである安南宝塔を建立することを発願した。

また、慈覚大師は承和十四年に唐より帰国した時、龍門山寺(当時は大山寺)に立ち寄って金剛般若経一千巻を転じて納める安西宝塔が完成したといわれる。

龍門神社のある宝満山の遺跡発掘調査は平成二十年に太宰府教育委員会によって行われ「本谷礎石群」が発見された。その基壇周辺より平安期の瓦や小金銅仏が出土し、年代や文献と一致した。このため安西筑前宝塔と証明された。

法華経一千部を納める塔



六所宝塔とは、比叡山に2箇所のほか日本の東西南北の4寺院(上野国浄法寺、下野国大慈寺、豊前国宇佐弥勒寺、筑前国龍門山寺)のそれぞれに法華経一千部八千巻を納める塔のことである。写真は太宰府宝満山の安西筑前宝塔跡に建立された宝塔。

極微

一瞬にしてニュースが世界を駆け巡る現代だが、そのニュースが誤報であつたことがあつても、同じように瞬時に訂正ニュースが行き渡ることはいない。そのために途方もなく大きな被害を受ける例が多々ある▼かつて松本サリン事件で、第一通報者の河野義行さんが犯人であるかのように報道されたことは、今でも記憶に残る例だ。河野さんの場合は後に犯行者のオウム真理教の信者が逮捕され、疑いが晴れたが、受けた被害は大きかった▼50年ほど前におきた「三億円事件」では、元運転手が逮捕されたが、アリバイが証明され誤認逮捕だったことが分かった。しかし、プライバシーが洗いざらい世に晒され、好奇の目に追われたあげく失職、一家も離散し、後には命を絶つたという悲惨な結果となった▼最近、インターネットを介して交流するSNSが全盛だが、ここにも同じように誤った情報により個人攻撃をされる例が起きている。SNSを使ったイジメで中高生が命を絶つ例も出てきている▼一度発信された情報を訂正することは難しい。一方的に、それも不特定多数に流れるだけに、いつまでも誤った情報が残ってしまう。誤報が誤報を呼び、さらに歪曲されてしまう▼こうした情報化社会の弱点を克服する方策はないものだろうか。その危険性を放置せず、真剣に考えるべき時期ではある。